



デクセリアルズと株主の皆様をつなぐコミュニケーションマガジン

Dexerials Talk vol. 7

第7期 中間報告書 2018.4.1 - 2018.9.30

Contents

- 01 株主の皆様へ
- 03 **特集**: 持続的成長に向けた
新技術・新製品
- 05 TOPICS/CSR活動
- 07 株主様アンケート結果のご報告
- 09 デクセリアルズ・レビュー
- 裏表紙 会社概要/株式の状況

デクセリアルズ 株式会社

証券コード: 4980



2019年3月期 中間期のご報告

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
2019年3月期第2四半期累計期間(2018年4月1日～9月30日、以下当中間期)の
営業状況をご報告いたします。

代表取締役社長

一ノ瀬 隆

連結業績の概要 (第2四半期累計期間および通期見通し)

売上高		
当第2四半期	30,378百万円	前年同期比 20.5% 減
通期見通し	63,700百万円	前期比 9.1% 減
営業利益		
当第2四半期	1,952百万円	前年同期比 49.5% 減
通期見通し	7,000百万円	前期比 13.3% 増

経常利益		
当第2四半期	2,253百万円	前年同期比 42.3% 減
通期見通し	6,700百万円	前期比 17.9% 増
親会社株主に帰属する純利益		
当第2四半期	1,463百万円	前年同期比 46.2% 減
通期見通し	4,200百万円	前期比 22.6% 増



連結業績の状況

当中間期における当社グループの売上高については、反射防止フィルムでは基材の変更の影響による減収、及び光学ソリューションにおけるコンシューマーIT機器向けの事業収束判断の影響などにより、30,378百万円（前年同期比20.5%減）となりました。なお、上記の基材の変更と光学ソリューションの影響を除くと、売上高は前年同期比約1%増となります。

利益面では、光学弾性樹脂や異方性導電膜などが、厳しい環境が続いているコンシューマーIT製品市場の影響を受けました。また、異方性導電膜では前年同期の前半に一時的な収益押し上げ要因もありました。この結果、営業利益は1,952百万円（前年同期比49.5%減）となりました。

経常利益は為替差益の計上などにより2,253百万円（前年同期比42.3%減）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,463百万円（前年同期比46.2%減）となりました。

通期業績予想と配当

下期は、今後の本格的なスマートフォンの生産回復や、反射防止フィルムの需要増を見込む一方で、急激な円高や、スマートフォンの販売動向、貿易摩擦の影響を考慮し、2018年4月26日に公表した通期見通しに修正はありません。

従いまして、通期の連結業績については、売上高63,700百万円（前期比9.1%減）、営業利益7,000百万円（同13.3%増）、経常利益6,700百万円（同17.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益4,200百万円（同22.6%増）を見込んでいます。

今回の中間配当は、予定通り1株当たり20円とさせていただきます。期末配当についても同額を予定し、年間配当額は合わせて同40円となる見通しです。

株主の皆様におかれましては、当社グループ事業の発展にご期待いただき、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

決算のポイント

通期業績予想は実質増収増益

2019年3月期の減収予想は、主に反射防止フィルムの購入基材の変更によるものです。具体的には、基材の変更に伴い当社の仕入れ価格および当社製品の販売価格が下がったことによるもので、これによる利益への影響はありません。この影響を除くと増収となり、実質的には2019年3月期は増収増益を見込んでいます。

売上高と営業利益（億円）



下期に向けて順調に進捗

前年同期比では、新型スマートフォンの生産前倒しなど一時的な要因があった一方、期初予想比では、電子材料部品事業を中心に回復感がでてきました。

スマートフォンの本格的な生産回復が始まったことに加え、第3四半期以降にノートPC・車載向け反射防止フィルムの伸びを見込んでおり、前期よりも下期偏重となっております。

売上高（億円）*購入基材変更による影響を除く



「セグメントの状況」10ページへ

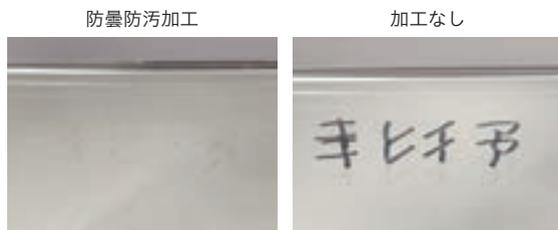
当社では、持続的成長に向けた取り組みとして、今後進展が見込まれる次世代通信(5G通信)など、先端技術を支える材料の開発をすすめています。さらに、環境負荷のより少ない製品の開発・改良もすすめ、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。今回はその成果の一部をご紹介します。

鏡の汚れをとれやすく、くもりにくくする技術を開発

どんな技術?

鏡の表面をコーティングすることで、汚れをとれやすく、つきにくくすることに加え、くもりにくくする技術です。水と油を弾く特性をもちながら、水蒸気を吸収する層を独自の塗り方によって形成することで、これらの特性を実現します。

▶ 油性汚れのつきにくさの比較(油性マジック)



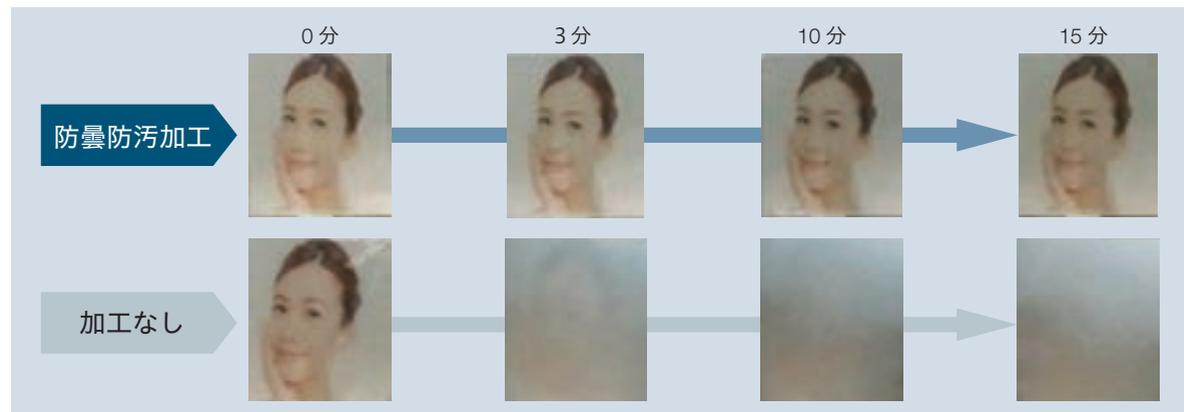
この技術は、当社が液晶ディスプレイの最表面の指紋や汚れをとれやすくするために、培ってきた技術を応用したものです。

現在、様々な製品で汚れのとれやすさや、くもりにくさの向上が求められることから、エレクトロニクス製品以外にも展開をすすめており、今回は鏡向けの技術を開発しました。



パナソニック株式会社
洗面化粧台「ウツクシリーズ」
(当社技術採用)

▶ 鏡のくもるスピードの比較



他社にはできないの?

このコーティングには、水と油を弾きながら、水蒸気を吸収する特性を発揮するために高度な材料技術が必要です。当社はこれまで樹脂材料や接着剤などで培った技術を活かすことで実現できました。

現在、市場に出ている鏡にも、くもりにくくする加工が施されているものがあります。しかし、当社のコーティングを施した鏡は、従来品よりも長く視認性を確保できることを当社実験で確認しています。また、防汚性については、同じレベルの機能を持ったコーティングは当社が知る限りありません。

この性能を評価いただき、本技術は8月よりパナソニック株式会社の洗面化粧台の鏡に採用されています。

8月7日(火) テレビ東京 ワールドビジネスサテライト(WBS) 「トレンドたまご」コーナーにて放送





次世代通信の 基板材料を開発

どんな製品？

次世代通信など、短い時間に大量のデータをやり取りする（伝送する）時に使う、フレキシブルプリント基板の材料です。フレキシブルプリント基板内部の信号線やカバー層、基材層を貼り合わせる時に使います。

この製品は電氣的にプラスマイナスに偏りにくい（誘電率が低い）ため、高速伝送の際、信号の損失が発生しにくくなります。

今後、5G通信など、通信・伝送の高速化により、周波数が高くなり、損失の量が多くなるため、対策の重要性が増しています。



他社にはできないの？

誘電率を低くするためには、極性基と呼ばれる電氣的に偏った原子団を入れないようにする必要があります。しかし、この極性基は接着強度を強くする効果もあるため、少なくすると接着強度が弱くなってしまいます。

これに対し、当社はこれまで培ってきた接合技術や各種テープ等に用いてきた配合技術などのノウハウを用いて、接着強度と低誘電率を両立しています。

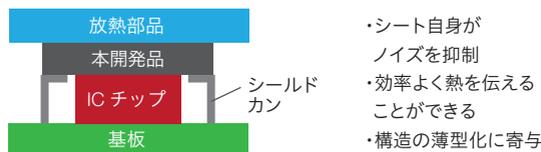


熱を伝えて電磁波ノイズを 封じ込めるシートを開発

どんな製品？

現在、通信や伝送の速度の上昇によって、ICチップが動作する回数（動作周波数）が増えています。そして発生する電磁波ノイズと熱の量も多くなり、その対策が一層重要になってきています。このシートは電磁波ノイズと熱の対策が1枚でできる材料です。熱伝導シートの中に、電磁波ノイズを抑える効果がある磁性粉と、高い熱伝導率を持つ炭素繊維を入れることで、電磁波ノイズ対策と熱対策を両立します。

▶ 本開発品を使用したシールド構造例



他社にはできないの？

このシートは電磁波ノイズ抑制機能と高い熱伝導率を両立するために、磁性粉と炭素繊維をバランスよく配合することが重要です。磁性粉の量を多くすると熱伝導率が上がらず、逆に炭素繊維が多くなると十分な電磁波ノイズ抑制効果が得られません。

当社はこれまで接着剤や熱伝導シートをはじめとする樹脂材料を手がけており、そこで配合に関する様々な技術を獲得しています。今回はその技術を活かし、電磁波ノイズ抑制機能を持ちながら、高い熱伝導率を実現しています。



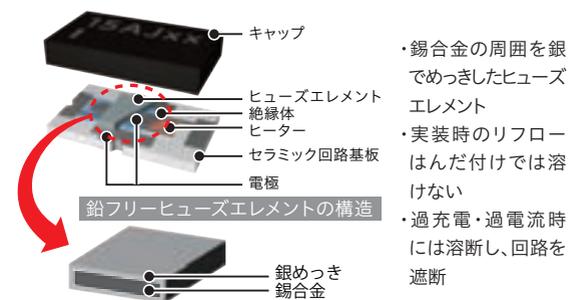
表面実装型ヒューズの 鉛フリー化に成功

どんな製品？

セルフコントロールプロテクター（SCP）は、リチウムイオンバッテリーの充電と放電を制御している1次保護が正しく機能せずに、過電流や過充電が発生した時に作動する2次保護素子です。

これまでは欧州連合のRoHS指令の適用除外の鉛を使っていたが、鉛の環境への影響と今後の規制強化の可能性を考慮し、鉛を使わない製品開発をすすめ、このたび特許を取得しました。

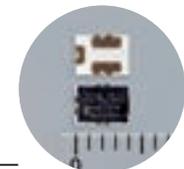
▶ セルフコントロールプロテクター（SCP）の構造



他社にはできないの？

これまで使っていた鉛を含む材料に似た特性の材料が無いと、鉛を使わずに同じ機能を実現することは、非常に困難でした。

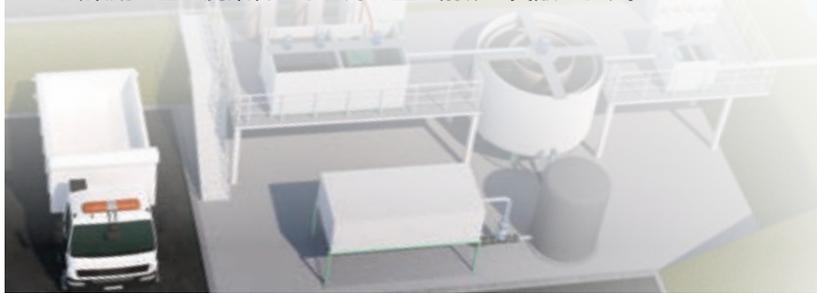
当社は似た特性の合金を開発するのではなく、発想を転換してめっきの技術を使うことで、鉛を使わずに同じ機能を実現しました。



工場排水の水質を改善する排水処理剤(無機排水用)増産開始

2018年9月3日、デクセリアルズ蘇州*に新たに設けられたラインで製造した排水処理剤(無機排水用)の初出荷に際し、記念式典をおこないました。

当社の排水処理剤は半導体工場やめっき工場から排出される無機排水を処理するもので、植物から得られる成分の配合により凝結・凝集・脱水促進の3つの機能を兼ね備えています。これにより従来の処理剤よりも使用量をへらすことができ、薬剤の量と廃棄物となる汚泥量の削減に貢献します。



排水処理剤の凝集沈でんイメージ



出荷式の様子



排水処理剤(無機排水用)

*本紙面ではDexerials (Suzhou) Co., Ltd. をデクセリアルズ蘇州と表記しています。

人工骨を手がけるオルソリバース(株)へ出資

綿形状の人工骨充填材を世界で初めて開発した同社に出資いたしました。当社との技術的親和性が高く、開発支援などのサポートが可能であると考えております。また、当社はライフサイエンス領域におけるマーケティングなどの知見獲得も期待できると判断し、2018年3月に同社への出資を実施しました。



センサー材料を開発する アドバンストマテリアルテクノロジーズ(株)へ出資

高精度センサーに用いられる代表的な圧電材料の性能を高める独自の材料設計とスパッタリングの技術を有する同社へ出資いたしました。共同で新しい無機材料を開発することにより当社要素技術の発展に貢献するとともに当社事業の拡大も期待できると判断し、2018年5月に同社への出資を実施しました。



日経IR・投資フェア2018に出展

当社は2018年8月31日(金)、9月1日(土)に東京ビッグサイトで行われた「日経IR・投資フェア2018」に出展いたしました。2日間合計で約18,000名のご来場者で賑わい、当社ブースには1,000人を超える皆様に足を運んでいただきました。開催2日目におこなった会社説明会では、当社の主力製品と成長戦略についてご説明し、多くのご来場者より高い関心が寄せられる場となりました。



足尾銅山に緑を取り戻す活動

足尾銅山は、明治時代には国内一の産出量を誇る銅山でしたが、その一方で日本の公害問題の原点とも言われる鉱毒事件で知られています。その荒廃地を緑に変えるために、当社は2009年よりNPO法人足尾に緑を育てる会が提唱する「足尾の山に100万本の木を植える」という趣旨に賛同し、法人会員として育苗、植樹、草刈、間伐などの森づくりをお手伝いしています。

2018年4月に開催された「第23回春の足尾植樹デー」イベントでは、役員をはじめ、合計33名の社員およびその家族が参加し、足尾に緑を取り戻すために植樹活動をおこないました。



当社主催の清掃サイクリング

当社は地域貢献とサイクルスポーツの振興を目的として“宇都宮ブリッツェン”運営会社であるサイクルスポーツマネジメント(株)を支援しています。その一環として、当社単独の協賛スポンサーとして「清掃サイクリング」を6月と9月に宇都宮市森林公園周辺道路にて開催しました。

この清掃サイクリングはサイクルスポーツを通じて地域の環境づくりの意識を高めることを目的としており、本イベントに自転車愛好家ら一般参加者を含めた合計30名が参加しました。集まった空き缶やペットボトルなどのごみで軽トラックの荷台は満杯となりました。これからも地域貢献活動に積極的に参加してまいります。

渡良瀬遊水地の自然保全活動

当社は2017年7月、栃木市が自然環境の保全を目的に取り組む「渡良瀬ナイツクラブ」に法人会員として登録しました。渡良瀬遊水地は2012年にラムサール条約湿地*に登録されており、広大なヨシ原に数多くの貴重な植物、鳥類、昆虫類、魚類などが生息しています。今年5月に外来植物除去活動、9月には渡良瀬遊水地周辺で楽しまれているレジャーやスポーツの体験を通じて環境保護の関心を高める目的で、当社が協賛する「ラムサール条約登録湿地 渡良瀬遊水地フェスティバル2018」が開催されました。

今後も豊かな生態系を維持し生物多様性、自然環境を守る活動に積極的に協力してまいります。



外来植物除去活動の様子



*湿地の保存に関する国際条約。水鳥を植物連鎖の頂点とする湿地の生態系を守る目的で1971年2月2日に制定され、特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地およびそこに生息・生育する動植物の保全を促進するための措置策について規定しています。

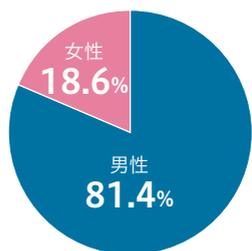
株主様アンケート結果のご報告

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

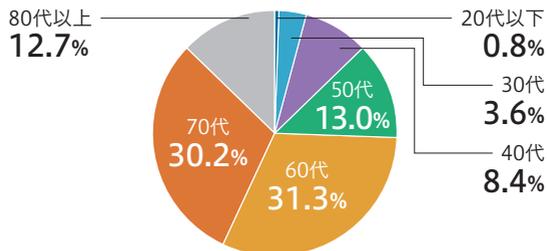
回答者数 **2,800**名 回収率 **11**%

Dexerials Talk vol.6にてお願いいたしましたアンケートに、大変多くの株主様より回答をお寄せいただきました。当社では、株主様の当社への期待の大きさを真摯に受け止めるとともに、いただいた貴重なご意見・ご要望を、今後の経営とIR活動に活かしていきたいと考えております。

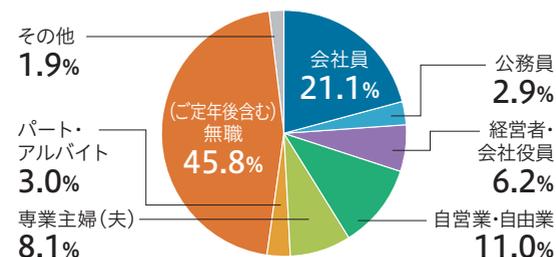
性別



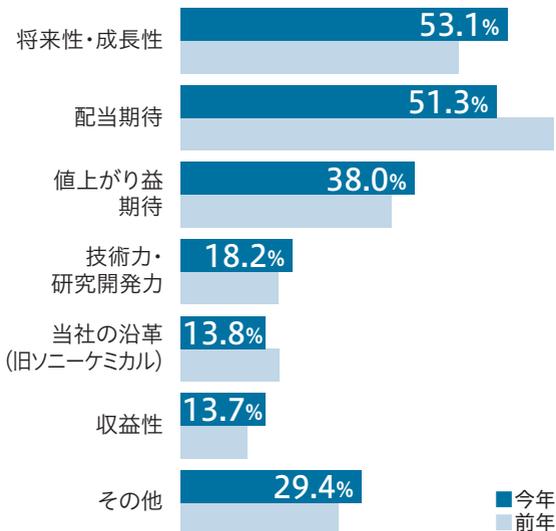
年齢



職業

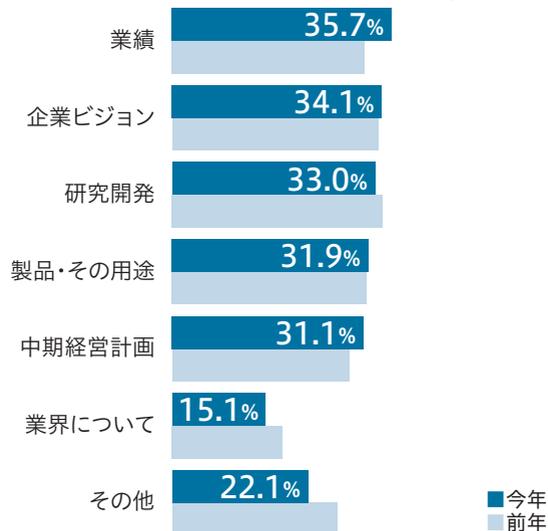


Q 当社株式取得の決め手となった項目として、近いものをお聞かせください(複数回答可)



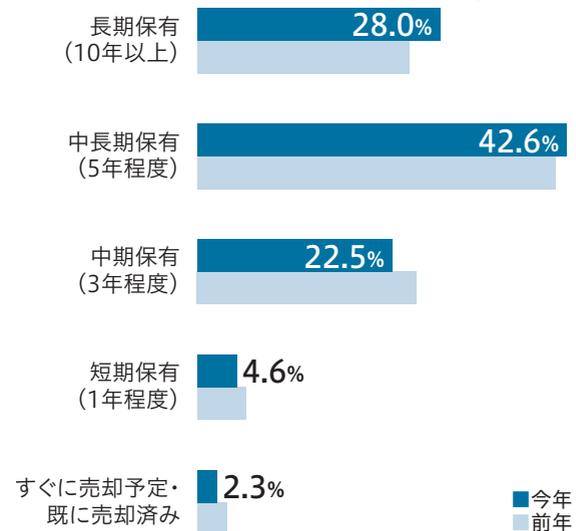
※総回答者数(2,800名)を母数として割合を算出しています。

Q 当社について知りたい情報をお聞かせください(複数回答可)



※総回答者数(2,800名)を母数として割合を算出しています。

Q 当社株式の今後の保有方針についてお聞かせください



■今年
■前年

アンケート結果の ポイント

- 当社株式取得の決め手となった項目については、昨年首位の配当期待を上回り、将来性・成長性が最も高くなりました。
- 当社について知りたい情報については、項目ごとの偏りはないものの、業績に最も多くの関心が寄せられています。
- 当社株式の今後の保有方針につきましても、昨年と同様に90%以上の株主様に、3年以上の保有方針をご選択頂きました。今後も株主様のご期待に沿えますよう、企業価値の向上にまい進してまいります。

お寄せいただいたご意見にお答えいたします。

株価を上げて
ほしい

A. 現行の中期経営計画を確実に達成することに加え、メディア露出やIRフェア出展などの認知度向上の取り組みを引続き行い、弊社を知ってもらうためのIR活動を積極的に推進してまいります。

A. 当社は重要な経営指標として調整後(のれん償却前)の数値を用いています。2012年の独立時に旧親会社に支払った買付金額と当社の資産の時価の差額である約360億円を「のれん」として計上し、20年間で均等償却しております。そのため、のれん償却額を営業利益、当期純利益にそれぞれ足し戻した数字が調整後の利益となります。

調整後
利益を説明して
ほしい

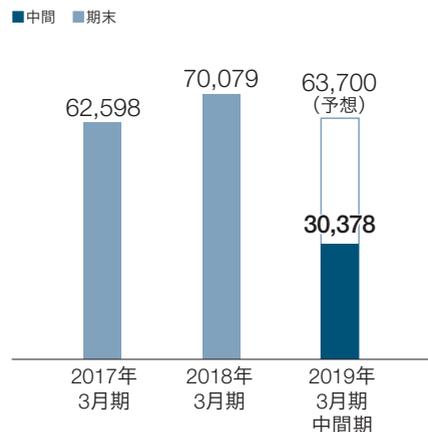
株主還元
について教えて
ほしい

A. 当社は株主の皆様への利益還元を経営の最重要な経営課題のひとつと位置付け、株主優待は行わず、企業価値向上につながる事業投資を優先しつつ、総還元性向40%程度を目処に利益成長に応じた株主還元を基本方針としております。

貴重なご意見を踏まえ、今後の情報発信においても
参考にさせていただきます。

デクセリアルズ・レビュー

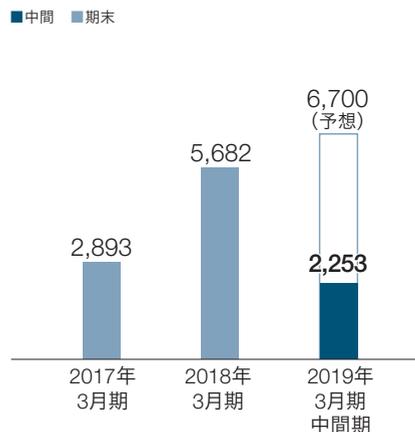
売上高 (百万円)



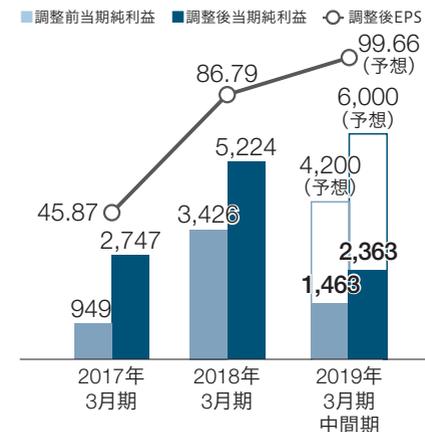
営業利益 (百万円) と営業利益率 (%)



経常利益 (百万円)



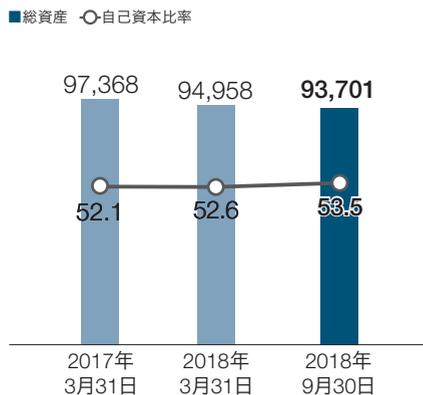
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円) 年間EPS (円)



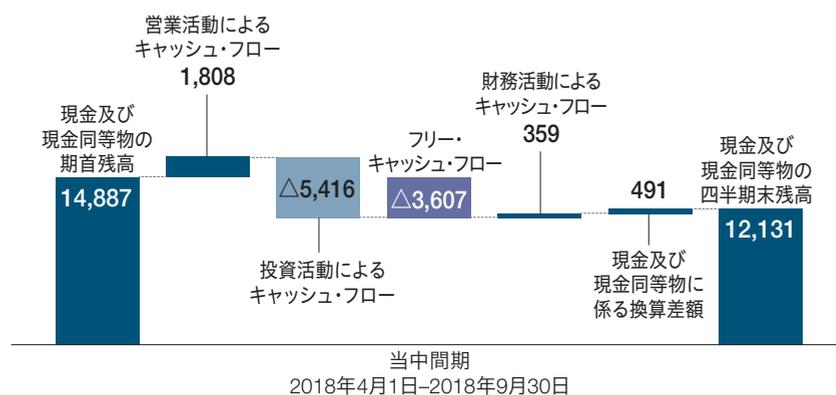
ROE (自己資本利益率) (%)



総資産 (百万円) 自己資本比率 (%)



キャッシュ・フロー (百万円)



▶ より詳細なデータについては当社サイト「IR情報」ページをご参照ください。

WEB <http://www.dexerials.jp/ir/>

デクセリアルズ IR 検索



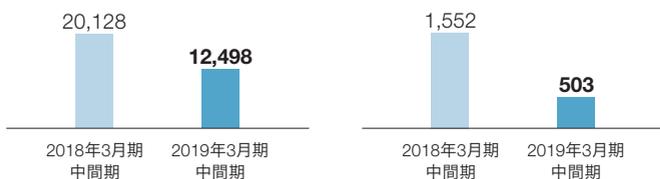
セグメントの状況



光学材料部品事業

売上高 (百万円)

営業利益 (百万円)



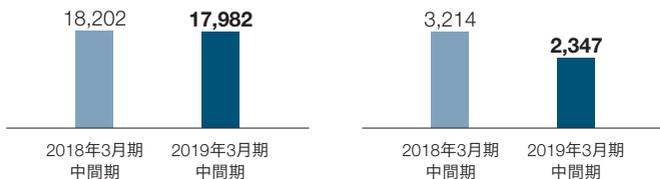
- 反射防止フィルムの基材の変更と光学ソリューションの影響を除くと、売上高は前年同期比約5%増
- タブレットPCやスマートフォン向けで使われる光学弾性樹脂などの売上減少によりセグメント全体でも減益



電子材料部品事業

売上高 (百万円)

営業利益 (百万円)



- 表面実装型ヒューズは増収増益
- 厳しい環境が続いているコンシューマーIT製品市場の影響、前年同期の前半には新型スマートフォンの生産前倒しの影響があった異方性導電膜は減収減益、セグメント全体でも減益

連結業績および財務データ

		第5期 2017年3月期		第6期 2018年3月期		第7期 2019年3月期	
		上期	通期	上期	通期	上期	通期(予想)
売上高	(百万円)	27,373	62,598	38,225	70,079	30,378	63,700
営業利益	(百万円)	1,437	3,491	3,867	6,178	1,952	7,000
経常利益	(百万円)	925	2,893	3,907	5,682	2,253	6,700
四半期(当期)純利益*	(百万円)	34	949	2,722	3,426	1,463	4,200
純資産額	(百万円)	48,659	50,682	51,794	49,921	50,090	—
総資産額	(百万円)	87,902	97,368	96,525	94,958	93,701	—
自己資本比率	(%)	55.4	52.1	53.7	52.6	53.5	—
有利子負債	(百万円)	17,000	20,000	22,500	21,083	22,666	—
1株当たり四半期(当期)純利益*	(円)	0.57	15.85	45.28	56.91	24.20	69.76
1株当たり純資産	(円)	812.90	843.56	860.10	825.82	827.18	—
1株当たり配当金	(円)	27.5	55.0	20.0	40.0	20.0	40.0
設備投資	(百万円)	1,704	9,383	2,115	7,257	1,421	5,700
研究開発費	(百万円)	1,839	3,632	1,863	3,702	1,854	3,800
減価償却費	(百万円)	1,494	3,334	1,887	3,799	2,068	4,600
のれん償却費	(百万円)	899	1,798	899	1,798	899	1,800
従業員数(連結)	(名)	—	2,124	—	1,981	—	—
為替レート(円/米ドル)	(円)	105.4	108.4	111.1	110.9	110.3	107.6

調整後**利益・指標

営業利益	(百万円)	2,336	5,289	4,766	7,976	2,851	8,800
当期純利益*	(百万円)	933	2,747	3,621	5,224	2,363	6,000
1株当たり四半期(当期)純利益*	(円)	15.58	45.87	60.24	86.79	39.06	99.66
自己資本利益率(ROE)	(%)	—	5.3	—	10.4	—	11.9

*親会社株主に帰属する当期純利益に読み替え

**のれん償却額を営業利益、当期純利益にそれぞれ足し戻して算出

会社概要 / 株式の状況 (2018年9月30日現在)

■ 会社概要

設立 2012年6月20日
 資本金 15,963百万円
 本社所在地 東京都品川区大崎一丁目11番2号
 従業員数 1,981名(連結)(2018年3月31日時点)

■ 取締役・監査役

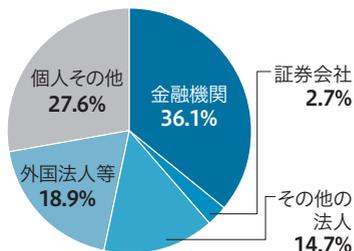
代表取締役社長	一ノ瀬 隆	取締役*	横倉 隆
代表取締役	安藤 尚	取締役*	高松 和子
取締役	永瀬 悟	常勤監査役*	佐竹 俊哉
取締役*	平野 正雄	監査役*	高田 敏文
取締役*	藤田 浩司	監査役*	佐藤 りか

*会社法に定める社外取締役、社外監査役

■ 株式の状況

発行可能株式総数 100,000,000株
 発行済株式の総数 63,768,600株
 株主数 25,747名

■ 所有者別株式分布状況



■ 大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,395,400	13.17
積水化学工業株式会社	5,040,000	7.90
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,634,400	5.70
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)	3,212,900	5.04
大日本印刷株式会社	3,125,000	4.90
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	1,817,900	2.85
MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY-PB	1,494,600	2.34
BNYM AS AGT/CLTS 10 PERCENT	1,324,500	2.08
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	999,500	1.57
みずほ証券株式会社	884,200	1.39

■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月開催
 期末配当金受領株主確定日 3月31日
 中間配当金受領株主確定日 9月30日
 1単元の株式数 100株
 証券コード 4980
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 事務取扱場所 東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 連絡先・郵便物送付先 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1

〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 TEL 0120-232-711(通話料無料)
 ホームページ <https://www.tr.mufg.jp/daikou/>
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

手続きに関するご案内

住所・氏名の変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定などの手続きは、口座を開設されている証券会社へご連絡ください。
 相続などによる株式所有者の変更は、株主名簿管理人および口座をお持ちの証券会社にご連絡ください。
 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
 公告掲載URL <http://www.dexerials.jp>

株式に関する手続きのご案内

お取扱窓口
 お問い合わせ先

支払明細の発行、未払配当金のお支払い等については、以下の連絡先にお問い合わせください。
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-232-711(通話料無料)
 (土日祝祭日等を除く平日9:00~17:00)
 上記電話番号をご利用いただけない場合 042-204-0303(通話料有料)

ホームページのご案内



2019年3月期 第1四半期より決算説明会の動画、およびスピーチ原稿を当社ホームページでご覧いただけます。

<http://www.dexerials.jp/ir/>
 デクセリアルズ IR 検索



デクセリアルズ 株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー8F
 TEL (03)5435-3941



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



環境に配慮した植物油インキを使用しています。